

北軽井沢の初夏の光の中で羽を休めるスズメの姿を捉えたものです。頭部の赤褐色、頬の黒い斑点、ずんぐりとした体つきなど、日本のスズメの特徴がよく表れています。スズメは人の暮らしと深く結び付いた鳥で、市街地から農村まで広く分布していますが、標高約 1100 メートルの高原では意外に目立たない存在です。逆光に照らされた羽毛の一枚一枚が輝き、身近な野鳥でありながら美しい姿を見せてくれました。

この地域では、むしろシジュウカラのほうを多く見かけます。周囲にはカラマツ林や雑木林が広がり、樹洞や巣箱を利用するシジュウカラに適した環境が整っているためです。一方のスズメは、人家や農地の近くを好む傾向が強く、森の奥にはほとんど入りません。そのため、北軽井沢ではどこにでもいる鳥というより、集落の周辺で見かける鳥という印象があります。

興味深いことに、このスズメは冬季にだけ使用される暖房機器の排気管に営巣しています。春から秋にかけては使われない空間であるため、外敵や雨を避ける安全な場所として利用しているのでしょう。本来は軒下や瓦の隙間などに巣を作る鳥ですが、人間が作った構造物を巧みに利用する能力に優れています。高原の短い春から夏にかけて子育てを行うこのスズメの姿からは、人と共に生きる鳥ならではのしたたかな適応力が感じられます。

(2026年5月下旬／北軽井沢)

